1.城跡等の総括的事項

名称(遺跡名)	史跡甲府城跡	都道府県	山梨県	市町村	甲府市
文化財種別	国指定史跡	指定年月日	平成31年2月26日	指定面積	64,139㎡
その他の指定		その他の法規制	都市公園法、都市計画法、景観法、甲府市風致地区条例、山梨県風致地区条例		
保存活用計画	☑ 有 ☐ 無　令和2年10月30日	整備基本計画	☑ 有 ☐ 無	令和4年3月31日	
調査担当部署	山梨県観光文化・スポーツ部　文化振興・文化財課 埋蔵文化財センター	整備担当部署	山梨県観光文化・スポーツ部 山梨県県土整備部		
管理担当部署	山梨県観光文化・スポーツ部 山梨県県土整備部	指定管理者	―		
委員会設置状況	史跡甲府城跡保存整備委員会 史跡甲府城跡調査検討委員会（令和８年～）	その他計画	―		
城郭等の概要	甲府城は10年３月の武田氏滅亡以後に築城が開始され、豊臣政権下で完成されたと考えられている。築城開始時期については天正年間の徳川期とする説や豊臣政権下の羽柴秀勝期とする説などもある。完成期は浅野家の家紋瓦の出土例や記録などから浅野長政・幸長父子の時期と見られている。甲府城跡の指定地内に残る石垣の大半は、この間に築かれたものと考えられている。慶長５年の関ヶ原の戦い以降、浅野氏が和歌山へ転封となると甲斐国は徳川氏の直轄領となる。徳川綱重期の寛文４年には幕府から２万両をいただく記録があり、城内の改修工事が実施された可能性がある。特に築城当初は石垣が築かれず、土羽の状態であったと考えられる楽屋曲輪西側に石垣が築かれたと推測されている（明治期の写真に布積みに石垣が写る）。宝永元年から享保９年までの柳沢期にも御殿群や曲輪の増設がなされた。その後は幕府直轄となり明治維新を迎える。石垣や曲輪の取り壊しや、堀の埋め立てなどが徐々に実施されていく。				
石垣の面積	約22,450 ㎡	石垣の総延長	約1.8 ㎞		
石垣の特徴	大半が築城期の野面積み石垣である。一部に布積みの切り込み接ぎの石垣がみられる。野面積みの石垣はいずれの乱積みで、築石には矢割りやハツリ、ノミ加工などの加工痕がみられるものも多い。矢穴の幅は概ね12cm程度。隅角部の算木積みは左右交互の順序の乱れや石材の縦遣いなどがみられる。勾配は直線的で60°程度。築石に利用されている石材は、いずれも安山岩。				
近代以降の動向	明治元年に官軍に引き渡され、明治５年に陸軍省管轄となる。明治６年、内城を保存し、二ノ堀、三ノ堀の内側は市街地化が決定され、明治８年には堀の埋め立てが実施される。明治９年、城内に残る主な建物や土塀等の撤去・払下げが実施される。 内城跡においては、明治６年に桑桐が植えられ、養蚕が実施されたほか、勧業製糸場建設のための煉瓦石製造所が設置される。明治９年には勧業試験場が設置され、内城のほぼ全域が開墾される。明治10年には鍛冶曲輪跡に葡萄酒醸造所が建設される。明治33年、楽屋曲輪に甲府中学校が建設され、屋形曲輪が校庭として利用される。明治29年、甲府停車場建設のため、清水曲輪が鉄道院に割譲され、明治36年の中央線甲府開通により清水曲輪と花畑曲輪が失われる。明治37年には天守台や本丸を中心とした残存エリアが「舞鶴公園」として一般開放された。大正６年、舞鶴公園が国から払い下げられ、県有財産となる。大正15年、甲府中学校跡地に県庁舎と県議会議事堂の移転が決議され、昭和２年着工、昭和５年に竣工した。この時、月見櫓台等も解体された。				
維持管理の概要	除草や樹木管理を含む公園としての日常管理は都市公園管理部局である県土整備部が実施している。 石垣を含む文化財の日常管理は観光文化・スポーツ部が実施している。平成２年から16年までの改修工事期、平成17年までの詰石補修期を経て、平成27年度からは石垣維持管理事業に移行した。これは観測と簡易補修によって指定地内の全ての石垣の長寿命化を図るためのもので、委託業務で実施している。 指定地内の全ての石垣を対象として目視点検とゲージ計測を実施する「一次点検」と各年度場所を限定して石積み技能者による詳細点検と簡易補修を実施する「二次点検」によって構成されている。年間を通してゲージ計測値に動態が観測される場合があることから、一次点検は年４回実施している。大地震などの後には臨時の点検を実施することとしている。				

2.城郭の概要等に関する図面・写真（城域・指定範囲・各曲輪配置・石垣配置・関連建造物配置等）





天守台



石垣直下の岩盤の露頭



軟弱地盤地帯における胴木・根切りの発見



甲府城跡遠景（白線内が指定地）

参考文献	山梨県　2005　『甲府城跡（上・下）－舞鶴城公園整備事業に伴う総合調査・整備報告書－』 山梨県　2020　『史跡甲府城跡保存活用計画』 山梨県　2022　『史跡甲府城跡整備基本計画』

3. 石垣カルテの作成状況

カルテの作成状況	☑ 昨成済　☐ 一部作成済 （作成率：約　%）　☐ 未作成 その他［　］
オルソ画像の作成	☑ 昨成済　☐ 一部作成済 （作成率：約　%）　☐ 未作成 その他［　］
作成担当部署	☑ 管理部署　☑ 整備部署　☑ 調査部署 その他［山梨県埋蔵文化財センターが作成　］
実施主体	☑ 自治体職員　☐ 民間委託業者　☐ 専門職員と委託業者共同 その他［　］
作成年 / 更新年	初回：［　　］年　最終更新：［　　］年
管理方法	☑ 紙台帳　☑ Excel・Word等　☐ GIS　☐ 3Dデジタルツイン その他［　］
カルテの更新頻度	☐ 毎年　☐ 数年に一回　☐ 随時　☑ 更新していない その他［　］
カルテ作成の課題	☐ 予算不足　☐ 専門職員不足　☑ 時間的不足 その他［　］

4. 文化財石垣耐震診断指針（案）に基づく予備診断の実施状況

予備診断の実施状況	☐ 実施済　☐ 一部実施済　☐ 実施中　☑ 未実施（検討中） 未実施の理由　［　］
実施方法	☑ 自治体直営　☐ 委託　☐ 専門職員と委託業者共同
予備診断実施等の課題（複数回答可）	☐ 予算不足　☐ 専門職員不足　☑ 時間的不足 その他［　］
予備診断における課題（自由記述）	

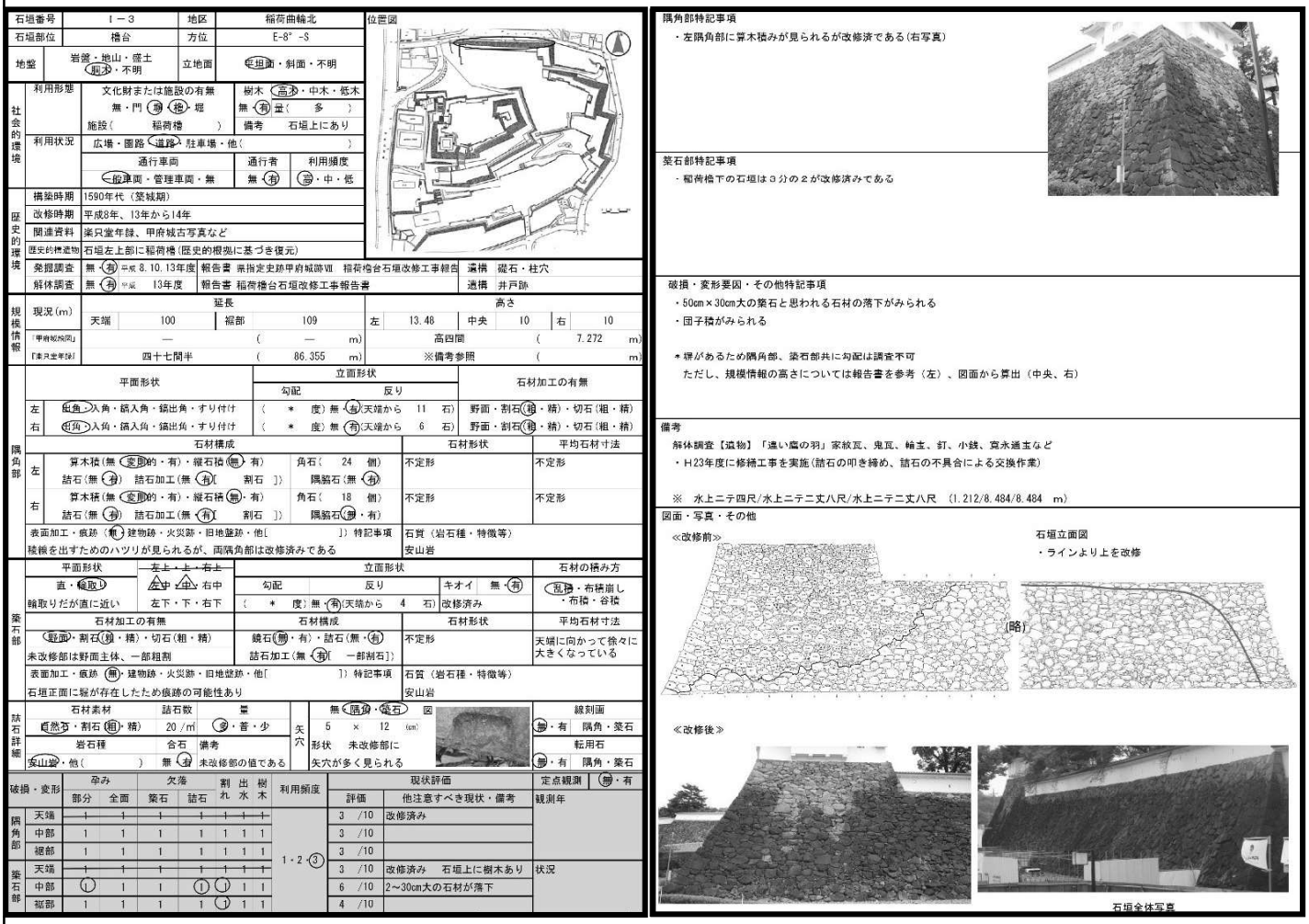
5. 降雨対策の実施状況（一部でも可、また今後の実施計画含む）

石垣構造内への遮水対策の内容（複数回答可）	☐ 植栽による遮水　☐ 不透水層の設置　☐ 遮水シートの埋設　☐ 表面舗装 ☑ 未実施（既存の表面排水含む） その他［　］
表面水の排水対策の内容（複数回答可）	☑ 公園施設の既存側溝　☐ 遺構に影響を与えない新設排水　☐ 復元した排水遺構 新設排水の具体的な実施内容［　］ その他［　］

6.3Dデータの取得・活用状況

3Dデータの取得状況	☑ 全面的に取得済　☐ 一部取得済（　%）　☐ 未取得（計画中）　☐ 予定なし その他［　］
主な計測手法（複数回答可）	☑ 地上型3Dレーザースキャン　☐ UAV（ドローン）等によるSfM写真測量 ☐ 航空レーザー測量　☐ スマホ・タブレット（LiDAR等） その他［　］
3Dデータの主な活用目的（複数回答可）	☑ 調査・研究　☑ 記録保存　☐ 経年変化の差分解析等 ☐ VR/AR等のデジタルコンテンツ化、公開・活用 その他［　］

7.石垣カルテ・耐震予備診断に関する図面・写真（作成カルテの事例、予備診断の内容等）



石垣番号	Ⅰ－3	地区	稲荷曲輪北
石垣部位	櫓台	方位	E-8°-S
地盤	岩盤・地山・盛土・(腐水)・不明	立地面	(平坦面)・斜面・不明

位置図

社会的環境
- 利用形態：文化財または施設の有無：無・門(有)塀(有)堀／施設（稲荷櫓）／樹木(高木)・中木・低木／無・(有)並（多）／備考 石垣上にあり
- 利用状況：広場・園路(道路)・駐車場・他（ ）

通行車両	通行者	利用頻度
(一般車両)・管理車両・無	無・(有)	(多)・中・低

歴史的環境
- 構築時期：1590年代（築城期）
- 改修時期：平成8年、13年から14年
- 関連資料：楽只堂年録、甲府城古写真など
- 歴史的構造物：石垣左上部に稲荷櫓（歴史的根拠に基づき復元）
- 発掘調査：無・(有)　平成8.10.13年度　報告書：県指定史跡甲府城跡Ⅷ　稲荷櫓台石垣改修工事報告　遺構：礎石・柱穴
- 解体調査：無・(有)　※平成13年度　報告書：稲荷櫓台石垣改修工事報告書　遺構：井戸跡

規模情報

現況(m)	延長		高さ				
	天端 100	裾部 109	左 13.48	中央 10	右 10		
「甲府城絵図」	—	（— m）	高四間	（7.272 m）			
『楽只堂年録』	四十七間半	（86.355 m）	※備考参照	（ m）			

隅角部

	平面形状	立面形状 勾配	立面形状 反り	石材加工の有無
左	(出角)入角・鎬入角・鎬出角・すり付け	（＊度）無・(有)（天端から 11 石）		野面・割石((粗)・精)・切石(粗・精)
右	(出角)入角・鎬入角・鎬出角・すり付け	（＊度）無・(有)（天端から 6 石）		野面・割石((粗)・精)・切石(粗・精)

	石材構成	石材形状	平均石材寸法
左	算木積（無・(変則的)・有）・縦石積(無)・有） 詰石（無・(有)）詰石加工（無・(有)［ 割石 ］） 角石（ 24 個） 隅脇石（無・(有)）	不定形	不定形
右	算木積（無・(変則的)・有）・縦石積(無)・有） 詰石（無・(有)）詰石加工（無・(有)［ 割石 ］） 角石（ 18 個） 隅脇石(無)・有）	不定形	不定形

表面加工・痕跡（無）・建物跡・火災跡・旧地盤跡・他［ ］ 特記事項：稜線を出すためのハツリが見られるが、両隅角部は改修済みである
石質（岩石種・特徴等）：安山岩

築石部

平面形状	立面形状 勾配	立面形状 反り	立面形状 キオイ	石材の積み方
直・(輪取り) 輪取りだが直に近い	左中 (左)中 右中 左下・下・右下	（＊度）無・(有)（天端から 4 石）	改修済み	(乱積)・布積崩し・布積・谷積

石材加工の有無	石材構成	石材形状	平均石材寸法
(野面)・割石((粗)・精)・切石(粗・精) 未改修部は野面主体、一部粗割	鏡石(無)・有）・詰石（無・(有) 詰石加工（無・(有)［ 一部割石 ］）	不定形	天端に向かって徐々に大きくなっている

表面加工・痕跡（無）・建物跡・火災跡・旧地盤跡・他［ ］ 特記事項：石垣正面に縋が存在したため痕跡の可能性あり
石質（岩石種・特徴等）：安山岩

築石詳細

石材素材	詰石数	量	矢穴	線刻画
(自然石・割石((粗)・精)	20 /㎡	(多)・普・少	無（(隅角)・築石） 図	(無)・有 隅角・築石
岩石種	合石	備考	5 × 12 (cm) 形状 未改修部に 矢穴が多く見られる	転用石
(安山岩)・他（ ）	無・(有)	未改修部の値である		(無)・有 隅角・築石

破損・変形

	孕み 部分	孕み 全面	欠落 築石	欠落 詰石	割れ	出水	樹木	利用頻度	現状評価 評価	現状評価 他注意すべき現状・備考	定点観測 (無)・有
隅角部 天端	1	1	1	1	1	1	1	1・2・(3)	3 /10	改修済み	観測年
隅角部 中部	1	1	1	1	1	1	1		3 /10		
隅角部 裾部	1	1	1	1	1	1	1		3 /10		
築石部 天端	1	1	1	1	1	1	1		3 /10	改修済み　石垣上に樹木あり	状況
築石部 中部	(1)	1	1	(1)	(1)	1	1		6 /10	2～30cm大の石材が落下	
築石部 裾部	1	1	1	1	(1)	1	1		4 /10		

隅角部特記事項
・左隅角部に算木積みが見られるが改修済である（右写真）

築石部特記事項
・稲荷櫓下の石垣は３分の２が改修済みである

破損・変形要因・その他特記事項
・50cm×30cm大の築石と思われる石材の落下がみられる
・団子積がみられる

＊碑があるため隅角部、築石部共に勾配は調査不可
ただし、規模情報の高さについては報告書を参考（左）、図面から算出（中央、右）

備考
解体調査【遺物】「遠い鷹の羽」家紋瓦、鬼瓦、輪宝、釘、小銭、寛永通宝など
・H23年度に修繕工事を実施（詰石の叩き締め、詰石の不具合による交換作業）

※　水上ニテ四尺/水上ニテニ丈八尺/水上ニテニ丈八尺　(1.212/8.484/8.484　m)

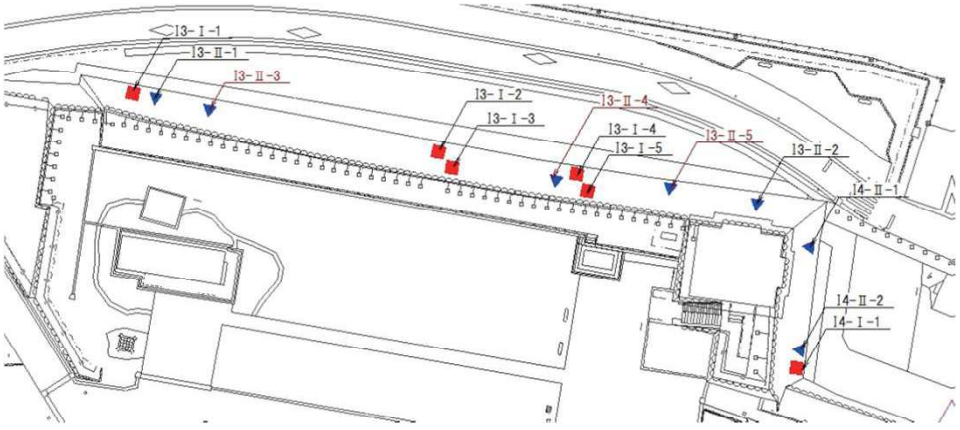
図面・写真・その他

≪改修前≫

石垣立面図
・ラインより上を改修

≪改修後≫

石垣全体写真



石垣維持管理事業ゲージ計測器設置位置及び、各地点におけるゲージ計測器の種別

・他にゲージ計測器観測データを含む各種点検結果、オルソ写真、
測量図面（立面図、垂直断面図、水平断面図）を伴う。

8.樹木管理

植栽管理計画の有無	☐ 有 ☑ 無　　計画名［　　］　　策定年度［　　］
実施主体	☑ 管理部署　☐ 整備部署　☐ 調査部署　☐ 指定管理者 その他［山梨県県土整備部で実施　　］
石垣及び周辺樹木への対応方針（天端・法面・根石付近）	☐ 伐採・除去　☐ 景観に配慮し、限定的伐採　☑ 未実施 その他　［
植栽管理の実績・内容等（直近5年以内）	
植栽管理における課題（自由記述）	

9.日常点検・実施体制

日常点検の内容	☑ 石垣の変状（孕み、緩み等）　☑ 間詰石の抜け落ち　☑地形の変状（ひび、沈下等） ☐ 樹木・草木の繁茂（目地からの繁茂等）　☐危険木の観察　☐排水機能の状況 その他［
日常点検の手法	☑ 目視　☑ 機器による動態観測（観測内容：ゲージ計測器による計測　　） その他［石積み技能者による詳細点検　　］
日常点検の頻度	☐ 毎日　☐ 週1回程度　☐ 月1回程度　☑年数回の定期　☐災害後のみ　☐随時
点検の主体	☐ 整備部署　☑ 調査部署　☐ 管理部署　☑ 委託（指定管理等）　☐ボランティア・市民団体 その他［
石垣の変状について、「修理」を検討する具体的な変位量の閾値があるか	☐ ある　☑ 無い　／　ある場合の具体的内容
閾値の設定について整備委員会等で議論を行っているか	☐ 行っている　☐ 今後行う予定　☑ 行っていない
変位確認後の対応スキーム（自由記述）	変位が継続するか、変動が一定のレンジの中に納まる現象かを検討するために継続的に観測。範囲の検討、変動の特性と原因の検討を経ながら修理の必要性の検討を進めることになると考えられる。全ての工程において委員会に諮りつつ、関連部局、石積み技能者等と協議しながら方向性を議論する。
日常点検における課題（自由記述）	点検データを精査し、より適切な方法を検討・議論し続ける必要がある。

10. 石垣修理履歴・記録の把握

江戸期の修理履歴の把握度	☐ 普請、絵図面、家老日誌等により、修理時期や場所が特定されている ☑ 上記の史資料は残されているが、時期・場所の特定はされていない その他　［　］
近現代の修理記録の把握度	☐ 明治以降、全ての修理が把握されている（施工箇所、工法、図面、写真等） ☑ 戦後の主要な修理は把握しているが、明治～戦前の記録は不明 ☐ 近年の大規模な修理のみ把握している その他　［　］
修理履歴・記録の活用状況	☑ 今後の修理計画の検討に活用している ☑ 日常の維持管理や点検する際の重点箇所として活用している ☐ 具体的な活用はしていない その他　［　］

1.城跡等の総括的事項

名称(遺跡名)	史跡松本城	都道府県	長野県	市町村	松本市
文化財種別	国指定史跡	指定年月日	昭和5年11月19日（昭和45年・平成19年・平成25年・平成26年・平成27年・平成28年・平成29年追加指定）	指定面積	93,675.6㎡
その他の指定	松本城天守（天守、乾小天守、渡櫓、辰巳附櫓、月見櫓）（それぞれ国宝）	その他の法規制	都市計画法(都市公園、用途地域、風致地区、高度地区、防火・準防火地域)、松本市都市公園条例、松本市景観条例、松本市屋外広告物条例、松本市受動喫煙防止条例		
保存活用計画	☑ 有 ☐ 無	平成28年9月策定	整備基本計画	☑ 有 ☐ 無	令和6年3月策定
調査担当部署	松本市文化観光部松本城整備課（史資料調査） 松本市文化観光部文化財課（発掘調査）	整備担当部署	松本市文化観光部松本城整備課（史跡整備）		
管理担当部署	松本市文化観光部松本城管理課	指定管理者	無		
委員会設置状況	史跡松本城整備委員会（昭和61年～） 史跡松本城整備基本計画策定委員会（令和4～6年）	その他計画	・松本城およびその周辺整備計画 平成11年9月 ・松本市景観計画 平成20年4月 ・国宝松本城天守保存活用計画 平成27年3月 ・緑の基本計画 平成27年3月 ・松本市歴史的風致維持向上計画 令和3年5月		
城郭等の概要	松本城は、戦国時代から幕末まで存続した信濃を代表する近世城郭である。16世紀中頃、武田氏により整備された深志城を前身とし、16世紀後半に小笠原氏及びその後の石川氏により近世城郭として整備され、16世紀末には、石川氏により天守が築造された。城郭は本丸・二の丸・三の丸と三重の堀からなり、本丸、二の丸、内堀、総堀の一部、外堀の一部、西総堀土塁跡が史跡指定されている。				
石垣の面積	約9,400 ㎡	石垣の総延長	4.1 ㎞		
石垣の特徴	石垣の大部分は野面積みで、隅については算木積みとなっている。調査等を行った部分については、裏側に約1.5mの裏込層が確認されている。また、天守台の南・西面の石垣では、筏地形が確認されており、軟弱な地盤で石垣を積むための工夫がなされている。				
近代以降の動向	明治6年の「廃城令」により、松本城は「存城」とされ、陸軍省の管轄の下に置かれるが、明治4年以降の門、櫓等の取り壊しの後も、本丸以外の石垣・土塁は、太鼓門枡形の一部を除いてほとんどが取り崩された。 明治維新以降、本丸は天守を会場に松本博覧会が開催された後、明治11年から松本農事協会の農事試験場として使用された。二の丸は、県庁として使用されていた二の丸御殿が明治9年に焼失し、その跡地が明治11年から松本区裁判所として使用された。二の丸御殿跡を除く二の丸は、古山寺御殿跡が長野県筑摩出張所として使用された後、明治18年から旧制松本中学校が置かれ、本丸も明治３３年からそのグラウンドとなった。この状況は昭和10年に旧制松本中学校が移転するまで続き、その後は、本丸・二の丸は公園や運動場として利用されたが、第二次世界大戦中であったため、公園としての本格的な整備は行われず、終戦を迎える。 戦後、昭和25年からの天守解体修理を機に、本丸及び二の丸の公園としての整備が行われ、現在に至る公園としての姿となっていった。三の丸は、総堀や土塁が残されていたが、次第に撤去され、市街化が進んでいった。				
維持管理の概要	松本城（松本城公園）の維持管理は、市直営で実施されている。 石垣の定期的な動態観測は、市が発注した業務委託で実施し、２年に１回定点測量という形で実施しており、データの蓄積を進めている。				

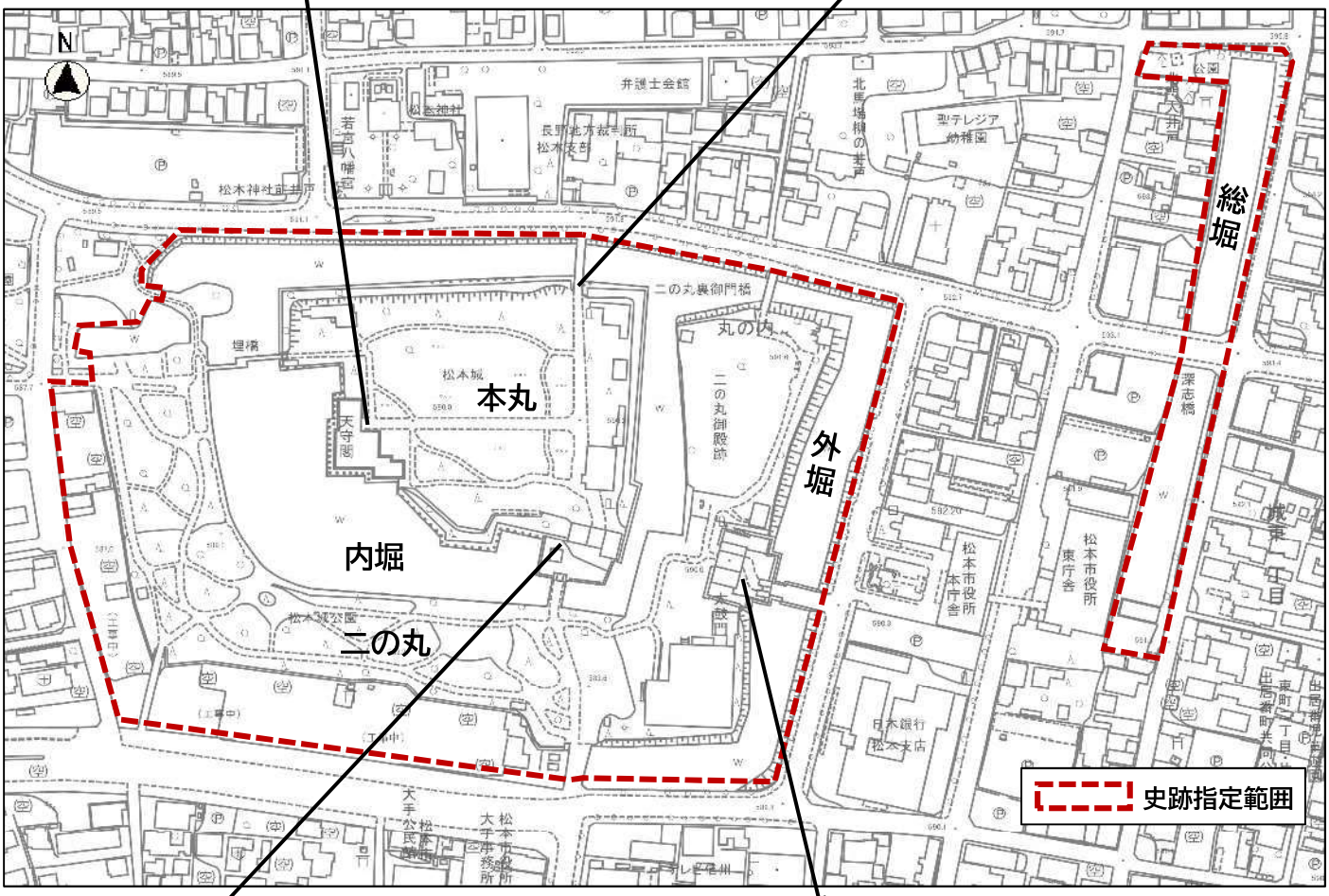
2.城郭の概要等に関する図面・写真（城域・指定範囲・各曲輪配置・石垣配置・関連建造物配置等）

天守台石垣



北裏門東側門台石垣
（H29～R1修理）





黒門西側門台石垣



太鼓門枡形石垣



参考文献	『史跡松本城　太鼓門桝形　発掘調査・石垣改修工事』平成5年 『史跡松本城　太鼓門桝形復元報告書』平成12年 『史跡松本城　総堀跡　-発掘調査・石垣改修工事報告書-』平成18年 『史跡松本城二の丸内堀　-発掘調査・石垣改修工事報告書-』平成23年 『史跡松本城　埋門南側石垣　-保存整備事業報告書-』平成27年 『史跡松本城　北裏門東側門台石垣　-保存整備事業報告書-』令和3年

3. 石垣カルテの作成状況

カルテの作成状況	☐ 昨成済　☐ 一部作成済 （作成率：約　%）　☑ 未作成 その他［　］
オルソ画像の作成	☐ 昨成済　☐ 一部作成済 （作成率：約　%）　☑ 未作成 その他［　］
作成担当部署	☐ 管理部署　☑ 整備部署　☐ 調査部署 その他［　］
実施主体	☐ 自治体職員　☐ 民間委託業者　☑ 専門職員と委託業者共同 その他［　］
作成年 / 更新年	初回：[　　] 年　最終更新：［　　] 年
管理方法	☑ 紙台帳　☑ Excel・Word等　☑ GIS　☐ 3Dデジタルツイン その他［　］
カルテの更新頻度	☐ 毎年　☐ 数年に一回　☐ 随時　☑ 更新していない その他［　カルテは未作成であるが、更新頻度については数年に１回程度を検討　］
カルテ作成の課題	☐ 予算不足　☑ 専門職員不足　☑ 時間的不足 その他［　今年度より着手を進めている　］

4. 文化財石垣耐震診断指針(案)に基づく予備診断の実施状況

予備診断の実施状況	☐ 実施済　☐ 一部実施済　☑ 実施中　未実施（検討中） 未実施の理由　[　]
実施方法	☐ 自治体直営　☐ 委託　☑ 専門職員と委託業者共同
予備診断実施等の課題（複数回答可）	☐ 予算不足　☑ 専門職員不足　☑ 時間的不足 その他［　］
予備診断における課題（自由記述）	今年度からの石垣カルテ作成と併せて実施しているが、モニタリングが必要な変状を示す箇所が多く確認される可能性があり、今後の課題となるものと考えられる。

5. 降雨対策の実施状況(一部でも可、また今後の実施計画含む)

石垣構造内への遮水対策の内容(複数回答可)	☐ 植栽による遮水　☐ 不透水層の設置　☐ 遮水シートの埋設　☑ 表面舗装 ☐ 未実施（既存の表面排水含む） その他［　］
表面水の排水対策の内容(複数回答可)	☑ 公園施設の既存側溝　☐ 遺構に影響を与えない新設排水　☐ 復元した排水遺構 新設排水の具体的な実施内容［　］ その他［　］

6.3Dデータの取得・活用状況

3Dデータの取得状況	☐ 全面的に取得済　☑ 一部取得済（5%）　☐ 未取得（計画中）　☐ 予定なし その他［　天守台石垣のみ取得済、今年度から業務委託により取得を進めている
主な計測手法（複数回答可）	☑ 地上型3Dレーザースキャン　☑ UAV（ドローン）等によるSfM写真測量 ☐ 航空レーザー測量　☐ スマホ・タブレット（LiDAR等） その他［　］
3Dデータの主な活用目的(複数回答可)	☑ 調査・研究　☑ 記録保存　☑ 経年変化の差分解析等 ☐ VR/AR等のデジタルコンテンツ化、公開・活用 その他［　］

7.石垣カルテ・耐震予備診断に関する図面・写真（作成カルテの事例、予備診断の内容等）

8.樹木管理

植栽管理計画の有無	□ 有 ☑ 無　　計画名［　　］　　策定年度［　　］
実施主体	☑ 管理部署　□ 整備部署　□ 調査部署　□ 指定管理者 その他［　　］
石垣及び周辺樹木への対応方針(天端・法面・根石付近)	□ 伐採・除去　□ 景観に配慮し、限定的伐採　☑ 未実施 その他　［
植栽管理の実績・内容等(直近5年以内)	大規模な剪定や伐採は実施していない。
植栽管理における課題(自由記述)	石垣に影響を及ぼす危険木の伐採、修景の為の剪定・伐採とも進んでいない。

9.日常点検・実施体制

日常点検の内容	☑ 石垣の変状（孕み、緩み等）　□ 間詰石の抜け落ち　□ 地形の変状（ひび、沈下等） □ 樹木・草木の繁茂（目地からの繁茂等）　□ 危険木の観察　□ 排水機能の状況 その他［	
日常点検の手法	☑ 目視　☑機器による動態観測（観測内容：トータルステーションによる定点観測） その他［	
日常点検の頻度	□ 毎日 □ 週1回程度 □ 月1回程度 □ 年数回の定期 □ 災害後のみ ☑ 随時（目視不定期、観測隔年）	
点検の主体	☑ 整備部署　□ 調査部署　□ 管理部署　□ 委託（指定管理等）　□ ボランティア・市民団体 その他［	
石垣の変状について、「修理」を検討する具体的な変位量の閾値があるか	□ ある　☑ 無い	ある場合の具体的内容
閾値の設定について整備委員会等で議論を行っているか	□ 行っている　□ 今後行う予定　☑ 行っていない	
変位確認後の対応スキーム(自由記述)		
日常点検における課題(自由記述)	日常点検が不定期である。また、目視の日常点検で何を点検するか、点検項目が確立されていない。 定点観測の頻度が、現在は２年に１回である。	

10. 石垣修理履歴・記録の把握

江戸期の修理履歴の把握度	□ 普請、絵図面、家老日誌等により、修理時期や場所が特定されている ☑ 上記の史資料は残されているが、時期・場所の特定はされていない その他　［　　］
近現代の修理記録の把握度	□ 明治以降、全ての修理が把握されている（施工箇所、工法、図面、写真等） □ 戦後の主要な修理は把握しているが、明治～戦前の記録は不明 ☑ 近年の大規模な修理のみ把握している その他　［　　］
修理履歴・記録の活用状況	□ 今後の修理計画の検討に活用している □ 日常の維持管理や点検する際の重点箇所として活用している ☑ 具体的な活用はしていない その他　［　　］

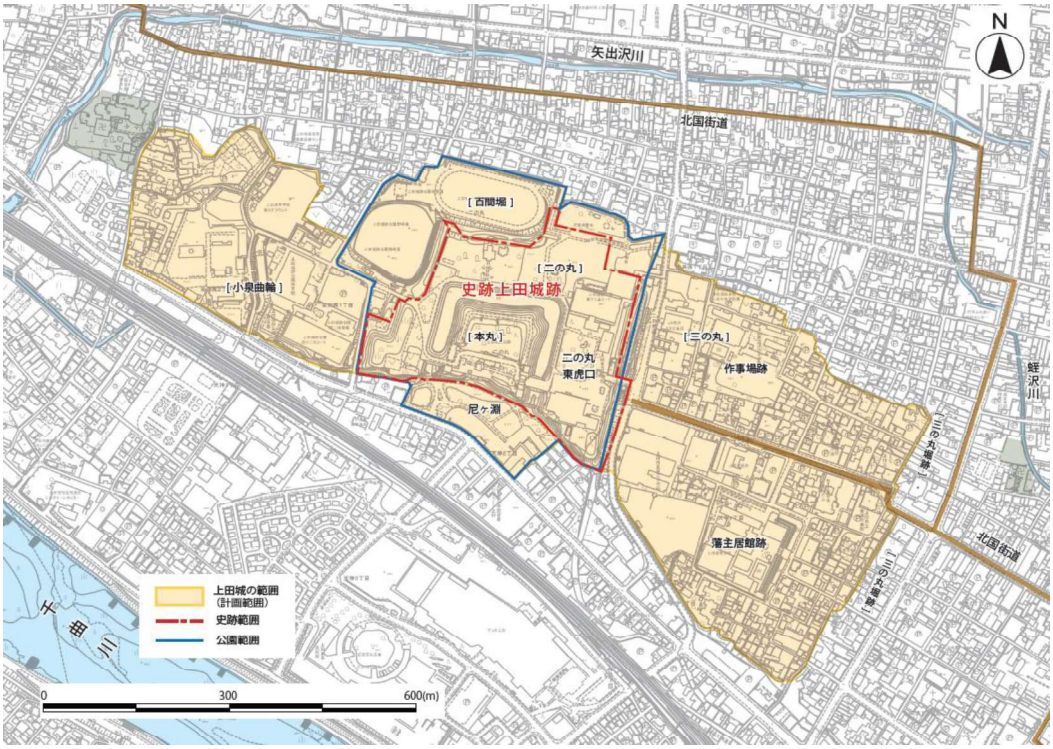
1.城跡等の総括的事項

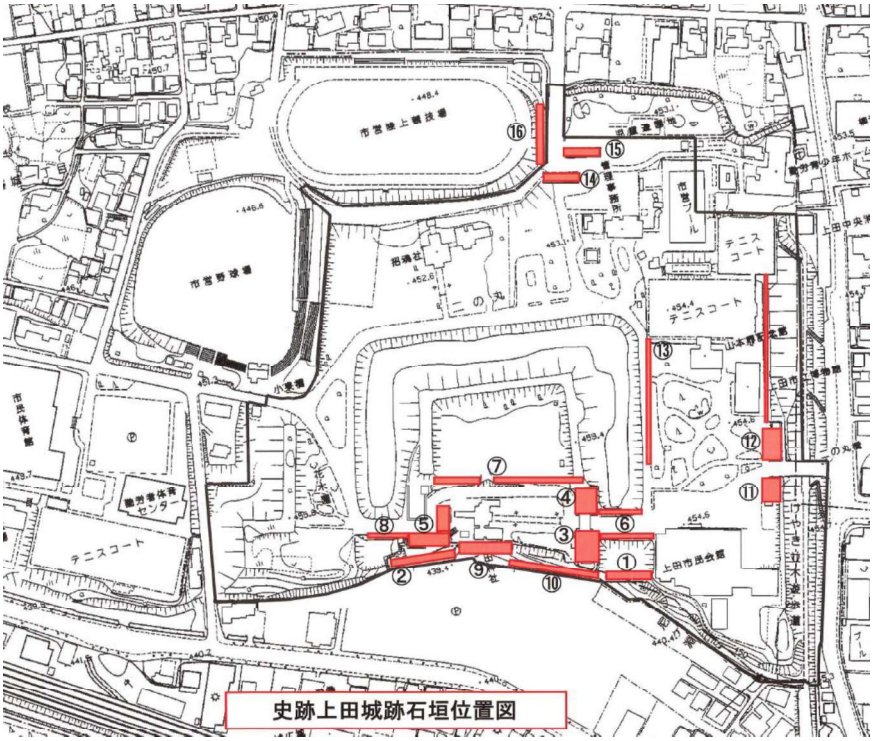
名称(遺跡名)	史跡上田城跡	都道府県	長野県	市町村	上田市
文化財種別	国指定史跡	指定年月日	昭和9年12月28日	指定面積	
その他の指定	上田城（南櫓、北櫓、西櫓）	その他の法規制	都市計画公園　上田城跡公園 上田市景観計画		
保存活用計画	有　令和6年3月策定	整備基本計画	有	平成24年3月改訂(現在改訂	
調査担当部署	教育委員会生涯学習・文化財課	整備担当部署	都市建設部上田城跡整備室		
管理担当部署	都市建設部都市計画課(公園管理) 教育委員会生涯学習・文化財課(文化財の保存管理)	指定管理者	なし		
委員会設置状況	史跡上田城跡整備専門家会議(令和2年～)	その他計画			

城郭等の概要	天正11年(1583)に徳川家に属していた真田昌幸により築城されたとされる。天正18年(1590)の秀吉による天下統一にあわせ近世城郭化されたと考えられ、金箔瓦も出土しているが、構造等は明らかとなっていない。慶長5年(1600)の関ケ原の戦い後、破城される。昌幸が蟄居となると子の信之が入るが城の復興には着手せず、その後入った仙石忠政が寛永3年(1626)に幕府の許可を得て復興に着手。2年後に忠政が没したため本丸の普請及び作事(二階櫓及び櫓門)、二の丸及び三の丸の普請が完了したところで中断。各虎口周辺及び尼ヶ淵の一部のみに石垣を設け、その他は土塁をめぐらしている。それ以降は享保15年(1730)に尼ヶ淵に護岸用の石垣を築造した以外は修復等の維持管理が主となった。

石垣の面積	㎡	石垣の総延長	㎞
石垣の特徴	虎口及び尼ヶ淵崖面のみに石垣を用いている。虎口周辺部は仙石氏復興期とされ北方にある太郎山山系から算出される緑色凝灰岩の割石と安山岩の野面石を用い、布積み崩しが主となる。尼ヶ淵崖面では主に仙石氏復興期と享保期に分けられるが、前者の中に一部算木積みを伴う野面積み石垣がみられる。		
近代以降の動向	明治４年（1871）の廃藩置県に伴い、上田城は兵部省に接収され、東京鎮台第二分営が置かれた。明治６年には第二分営が廃止され、明治７年に本丸、二の丸の土地、建造物、樹木などが士族に払い下げられることとなり、建造物や石垣は次第に取り壊され、西櫓１棟を除いた全ての建造物と石垣の一部は解体され、桑畑などに変貌していった。明治12年(1879)には本丸に松平氏の祖霊を祀った松平神社が創建され、その一部が公園として整備された。二の丸は監獄や伝染病院、公会堂等が設置されたが、昭和初期には公園化の要望が高まり、土地公有化、刑務所等の移転、体育施設等の設置が進められ、本丸とあわせ「上田城址公園」として解放された。昭和9年(1934)には本丸と二の丸の大部分が史跡に指定された。昭和24年(1949)には払い下げで遊郭として使われていた本丸隅櫓2等が移築復元され、昭和34年(1959)には現存の西櫓とあわせ長野県宝指定された。平成2年(1990)度に「史跡上田城跡整備基本計画」が策定され、それに基づき本丸東虎口櫓門の復元整備や二の丸北虎口石垣の復元整備、尼ヶ淵に面した石垣の解体修復や崖面の崩落防止工事等を実施してきた。		
維持管理の概要	公園としての維持管理は都市計画課及び公園管理事務所が行い、石垣や櫓等史跡の本質的価値にかかわる構造物や建造物の維持管理は生涯学習・文化財課で行っている。 除草および剪定をはじめとした植栽管理については、毎年度市発注の委託業務として造園業者にて実施している。石垣等についても公園管理事務所職員が日常的に見回りし、何かあれば都市計画課及び生涯学習・文化財課と連携し対応している。石垣の定期的な動態観測等は未実施。		

2.城郭の概要等に関する図面・写真（城域・指定範囲・各曲輪配置・石垣配置・関連建造物配置等）





史跡上田城跡石垣位置図

参考文献	上田市・上田市教育委員会　2010　『史跡上田城跡石垣基礎調査報告書』 上田市・上田市教育委員会　2024　『史跡上田城跡保存活用計画』

3. 石垣カルテの作成状況

カルテの作成状況	作成済	一部作成済 （作成率：約　%）	未作成	
	その他［			］
オルソ画像の作成	作成済	一部作成済 （作成率：約　%）	未作成	
	その他［			］
作成担当部署	管理部署	整備部署	調査部署	
	その他［			］
実施主体	自治体職員	民間委託業者	専門職員と委託業者共同	
	その他［			］
作成年 / 更新年	初回：[2010] 年	最終更新：［　　］年		
管理方法	紙台帳	Excel・Word等	GIS	3Dデジタルツイン
	その他［			］
カルテの更新頻度	毎年	数年に一回	随時	更新していない
	その他［			］
カルテ作成の課題	予算不足	専門職員不足	時間的不足	
	その他［			］

4. 文化財石垣耐震診断指針(案)に基づく予備診断の実施状況

予備診断の実施状況	実施済	一部実施済	実施中	未実施（検討中）
	未実施の理由	［		］
実施方法	自治体直営	委託	専門職員と委託業者共同	
予備診断実施等の課題（複数回答可）	予算不足	専門職員不足	時間的不足	
	その他［			］
予備診断における課題（自由記述）				

5. 降雨対策の実施状況(一部でも可、また今後の実施計画含む)

石垣構造内への遮水対策の内容(複数回答可)	植栽による遮水	不透水層の設置	遮水シートの埋設	表面舗装
	未実施（既存の表面排水含む）			
	その他［			］
表面水の排水対策の内容(複数回答可)	公園施設の既存側溝	遺構に影響を与えない新設排水	復元した排水遺構	
	新設排水の具体的な実施内容［			］
	その他［			］

6.3Dデータの取得･活用状況

3Dデータの取得状況	全面的に取得済	一部取得済（　%）	未取得（計画中）	予定なし
	その他［			］
主な計測手法（複数回答可）	地上型3Dレーザースキャン		UAV（ドローン）等によるSfM写真測量	
	航空レーザー測量		スマホ・タブレット（LiDAR等）	
	その他［			］
3Dデータの主な活用目的(複数回答可)	調査・研究	記録保存	経年変化の差分解析等	
	VR/AR等のデジタルコンテンツ化、公開・活用			
	その他［			］

7.石垣カルテ・耐震予備診断に関する図面・写真（作成カルテの事例、予備診断の内容等）

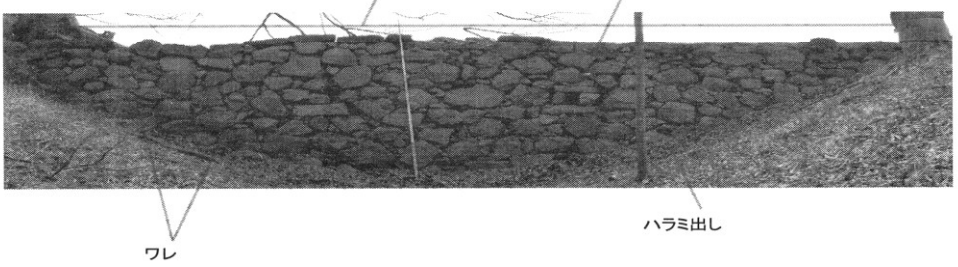
石垣番号	1－2	地区	本丸東虎口	石垣様式	積み方	野面積・打込ハギ
グリッドNo.	F－11，G－12				石積工法	布積崩し
場所	空堀				角石（算木） 左	－
角の形状	左隅角	－			角石（算木） 右	－
	右隅角	－			その他	－
石垣部位	北面				石材	緑色凝灰岩
上部構造物	無				刻印・転用石など	－

破損状況及び破損要因	良好	欠損	ズレ	ハラミ	ワレ	欠け剥離	陥没	崩落	間詰めのヌケ	その他焼損等	軽微な改変	その他
	－	n－1（天端）	－	t－1	n－2 n－3	n－5	－	－	n－5	－	－	－

石垣規模（単位:m）	天端長	基底部長	左端高	中央高	右端高	左角勾配	左端勾配	中央勾配	右端勾配	右角勾配	特記事項
	22.4	9.0	－	4.35	－	－	－	68	－	－	実測 棒のり

築造時期	仙石忠政在城期か	石垣危険度	破損状態	a2
改修等	－		影響の程度	b2
発掘調査	－		総合判定	B3
文献史料	「仙石家譜」			
測量履歴	－			

現況写真



全体に石材のワレ、剥離は少ない。
間詰石が多いが、抜け落ちや緩みは少ない。

備考		調査年月日	平成22年3月9日

『史跡上田城跡石垣基礎調査報告書』より抜粋

8.樹木管理

植栽管理計画の有無	無　　計画名［　　］　策定年度［　　］
実施主体	管理部署　整備部署　調査部署　指定管理者 その他［　　］
石垣及び周辺樹木への対応方針(天端･法面･根石付近)	伐採・除去　景観に配慮し、限定的伐採　未実施 その他　［
植栽管理の実績･内容等(直近5年以内)	市職員による日常的な目視点検に加え、年１回を目途に、樹木医による樹木調査を実施し、危険度が高いと判定されたものについては、伐採等を実施している。
植栽管理における課題(自由記述)	公園管理事務所が低木の剪定及び随時目視点検を行っているが、専門的な植栽管理や高木の剪定、特殊伐採等は専門業者への業務委託が必要であり、予算的制約が課題。

9.日常点検･実施体制

日常点検の内容	石垣の変状（孕み、緩み等）　間詰石の抜け落ち　地形の変状（ひび、沈下等） 樹木・草木の繁茂（目地からの繁茂等）　危険木の観察　排水機能の状況 その他［
日常点検の手法	目視　機器による動態観測（観測内容： その他［
日常点検の頻度	毎日　週1回程度　月1回程度　年数回の定期　災害後のみ　随時
点検の主体	整備部署　調査部署　管理部署　委託（指定管理等）　ボランティア・市民団体 その他［
石垣の変状について、「修理」を検討する具体的な変位量の閾値があるか	ある　無い　／　ある場合の具体的内容
閾値の設定について整備委員会等で議論を行っているか	行っている　今後行う予定　行っていない
変位確認後の対応スキーム(自由記述)	未定
日常点検における課題(自由記述)	公園管理事務所や文化財部局が随時目視を行っているが、機器による動態観測等数値的な把握ができていない。人員的な制約もあるが、当城における最適な手法の選定等、ノウハウが不十分であることも課題。

10. 石垣修理履歴･記録の把握

江戸期の修理履歴の把握度	普請、絵図面、家老日誌等により、修理時期や場所が特定されている 上記の史資料は残されているが、時期・場所の特定はされていない その他　［　　］
近現代の修理記録の把握度	明治以降、全ての修理が把握されている（施工箇所、工法、図面、写真等） 戦後の主要な修理は把握しているが、明治～戦前の記録は不明 近年の大規模な修理のみ把握している その他　［戦前についてはほとんど資料がなく、戦後も断片的に残っているのみ　］
修理履歴･記録の活用状況	今後の修理計画の検討に活用している 日常の維持管理や点検する際の重点箇所として活用している 具体的な活用はしていない その他　［　　］

1.城跡等の総括的事項

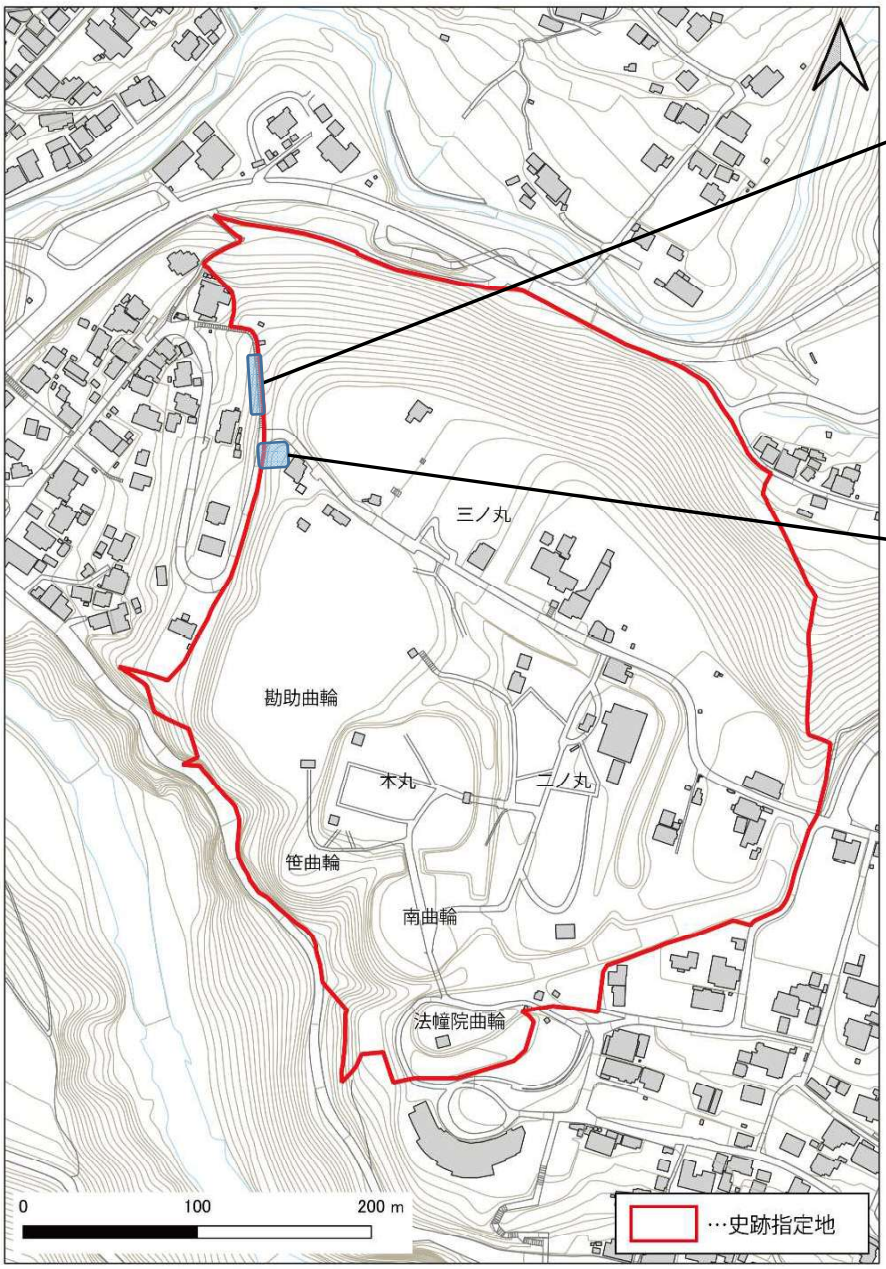
名称(遺跡名)	高遠城跡	都道府県	長野県	市町村	伊那市
文化財種別	国指定史跡	指定年月日	昭和48年5月26日	指定面積	126,210.48㎡
その他の指定	高遠のコヒガンザクラ樹林（県指定天然記念物） 高遠閣（国登録有形文化財）	その他の法規制	都市公園　高遠城址公園、都市計画用途地域　第一種中高層住居専用地域、第一種住居地域、三峰川水系県立公園第２種特別地域、土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域、景観計画区域、伊那市屋外広告物条例規制区域		
保存活用計画	☑有 ☐無　令和８年3月策定	整備基本計画	☑有 ☐無	平成12年３月策定	
調査担当部署	伊那市教育委員会生涯学習課	整備担当部署	伊那市教育委員会生涯学習課		
管理担当部署	伊那市商工観光部高遠商工観光課（公園維持管理） 伊那市教育委員会生涯学習課（文化財の保存管理）	指定管理者	（一財）伊那市振興公社		
委員会設置状況	伊那市高遠城跡整備委員会 伊那市高遠城跡保存活用計画策定委員会（令和6～7）	その他計画	史跡高遠城跡整備実施計画　2005		

城郭等の概要	高遠城は天竜川水系最大の支流である三峰川と藤沢川の合流点に形成された河岸段丘上に位置する平山城で、築城年代ははっきりしないものの、諏訪氏一族の高遠氏が居城とし、戦国時代に甲斐の武田信玄が大規模な改修を行ったとされる。武田氏の南信州における拠点となり、武田氏滅亡段階では壮絶な戦いの場になった。一般的には戦国期の城としてのイメージが強く持たれているが、江戸時代以降も保科家、鳥居家、内藤家の三家にわたる大名の居城として幕末まで存続したため、現存する遺構の大部分は近世城郭の遺構である。戦国末期の落城で壊滅的な状態になった城を、江戸時代初期までに大改修し、その後も手を加えたのが現在の高遠城の姿と考えられている。 東日本特有の土造りの城であり、石垣はあまり用いられていない。

石垣の面積	100 ㎡　（大手門跡のみ）	石垣の総延長	0.015 ㎞　（大手門跡のみ）

石垣の特徴	築城当初より高石垣は用いられていないものの、各曲輪の虎口等に石垣が用いられていたと見られる。現在は大手周辺や本丸虎口の一部に遺るのみで、大手門跡石垣については修理工事に伴う発掘調査において、江戸期の石垣であることが確認されている。その他は近代以降の石積みが混在しており、近世の状況は不明である。
近代以降の動向	明治5年（1872）の廃城後、明治政府の所管となり、建物や樹木、礎石、土地等が民間へ払い下げられ、明治6年7月までに建物は残らず取り壊された。本丸と南曲輪、笹曲輪は国有地のまま現在に至る。 政府が進める公園づくりの方針を受け、明治8年10月に公園化が決まり「高遠公園」となった。地元の東高遠町は、芝草や桜のひこばえを公園に移植したほか、本丸に旧藩主内藤家の祖先等をまつる神社や刻の太鼓を置く櫓、郷土の偉人の顕彰碑などを建て、地域の人々に親しまれる場所としての公園整備を進めた。一方、土塁の削平や堀の埋め立て、土橋の築造等が行われ、土地改変が行われた。 昭和35年（1960）に藩校進徳館が長野県史跡、高遠のコヒガンザクラ樹林が長野県天然記念物に指定された。昭和39年には高遠城跡が県史跡に指定され、昭和48年（1973）に進徳館を含める高遠城跡が国史跡に指定された。昭和51年（1976）に都市公園「高遠城址公園」になり、公開活用が図られている。
維持管理の概要	（一財）伊那市振興公社が都市公園区域を主に、史跡内の施設管理や環境整備を担っている。特に高遠のコヒガンザクラ樹林を含む植栽管理は、複数名の職員が常駐し、日常管理を行っている。４月の観応期は史跡指定範囲のうち、都市公園区域が有料区域になる。 藩校建物を含む文化財としての維持管理や活用事業等は、市教育委員会生涯学習課が直営で行っている。

2.城郭の概要等に関する図面・写真（城域・指定範囲・各曲輪配置・石垣配置・関連建造物配置等）





大手坂石垣（時期不明）



大手門跡石垣（近世）



高遠城（上空から）

参考文献	高遠町教育委員会　2002　『史跡高遠城跡大手門石垣　埋蔵文化財緊急発掘調査報告書』 高遠町教育委員会　1987　『史跡高遠城跡保存管理計画策定報告書』 高遠町　2000　『史跡高遠城跡整備基本計画書』 高遠町　2005　『史跡高遠城跡整備実施計画書』 伊那市教育委員会　2026　『史跡高遠城跡保存活用計画』

3. 石垣カルテの作成状況	
カルテの作成状況	☐ 昨成済　☐一部作成済 （作成率：約　%）　☑ 未作成 その他［　］
オルソ画像の作成	☐ 昨成済　☐ 一部作成済 （作成率：約　%）　☑未作成 その他［　］
作成担当部署	☐ 管理部署　☐ 整備部署　☐ 調査部署 その他［　］
実施主体	☐ 自治体職員　☐ 民間委託業者　☐ 専門職員と委託業者共同 その他［　］
作成年 / 更新年	初回：[　] 年　最終更新：［　] 年
管理方法	☐ 紙台帳　☐ Excel・Word等　☐ GIS　☐ 3Dデジタルツイン その他［　］
カルテの更新頻度	☐ 毎年　☐ 数年に一回　☐ 随時　☐ 更新していない その他［　］
カルテ作成の課題	☐ 予算不足　☐ 専門職員不足　☐ 時間的不足 その他［　］
4. 文化財石垣耐震診断指針(案)に基づく予備診断の実施状況	
予備診断の実施状況	☐ 実施済　☐一部実施済　☐実施中　☑ 未実施（検討中） 未実施の理由　[民有地であるため　]
実施方法	☐ 自治体直営　☐ 委託　☐ 専門職員と委託業者共同
予備診断実施等の課題（複数回答可）	☐ 予算不足　☐ 専門職員不足　☐ 時間的不足 その他［　］
予備診断における課題（自由記述）	
5. 降雨対策の実施状況(一部でも可、また今後の実施計画含む)	
石垣構造内への遮水対策の内容(複数回答可)	☐ 植栽による遮水　☐ 不透水層の設置　☐ 遮水シートの埋設　☐ 表面舗装 ☑ 未実施（既存の表面排水含む） その他［　］
表面水の排水対策の内容(複数回答可)	☑ 公園施設の既存側溝　☐遺構に影響を与えない新設排水　☐復元した排水遺構 新設排水の具体的な実施内容［　］ その他［　］
6.3Dデータの取得・活用状況	
3Dデータの取得状況	☐ 全面的に取得済　☐一部取得済（　%）　☐未取得（計画中）　☑ 予定なし その他［　］
主な計測手法（複数回答可）	☐ 地上型3Dレーザースキャン　☐ UAV（ドローン）等によるSfM写真測量 ☐航空レーザー測量　☐スマホ・タブレット（LiDAR等） その他［　］
3Dデータの主な活用目的(複数回答可)	☐ 調査・研究　☐ 記録保存　☐経年変化の差分解析等 ☐ VR/AR等のデジタルコンテンツ化、公開・活用 その他［　］

7.石垣カルテ・耐震予備診断に関する図面・写真（作成カルテの事例、予備診断の内容等）

なし

8.樹木管理

植栽管理計画の有無	☐有 ☑無　計画名［　　］　策定年度［　　］
実施主体	☐ 管理部署　☐ 整備部署　☐ 調査部署　☐ 指定管理者 その他［　　］
石垣及び周辺樹木への対応方針(天端・法面・根石付近)	☐ 伐採・除去　☐ 景観に配慮し、限定的伐採　☑ 未実施 その他　［　　］
植栽管理の実績・内容等(直近5年以内)	
植栽管理における課題(自由記述)	史跡内にあり、県天然記念物に指定されている「高遠のコヒガンザクラ樹林」との共存

9.日常点検・実施体制

日常点検の内容	☑石垣の変状（孕み、緩み等）　☐間詰石の抜け落ち　☐地形の変状（ひび、沈下等） ☑樹木・草木の繁茂（目地からの繁茂等）　☑危険木の観察　☐排水機能の状況 その他［
日常点検の手法	☑ 目視　☐ 機器による動態観測（観測内容： その他［
日常点検の頻度	☑毎日　☐週1回程度　☐月1回程度　☐年数回の定期　☐災害後のみ　☐随時
点検の主体	☐整備部署　☐調査部署　☐管理部署　☑委託（指定管理等）　☐ボランティア・市民団体 その他［
石垣の変状について、「修理」を検討する具体的な変位量の閾値があるか	☐ある　☑ 無い ある場合の具体的内容
閾値の設定について整備委員会等で議論を行っているか	☐ 行っている　☐ 今後行う予定　☑行っていない
変位確認後の対応スキーム(自由記述)	
日常点検における課題(自由記述)	

10. 石垣修理履歴・記録の把握

江戸期の修理履歴の把握度	☐ 普請、絵図面、家老日誌等により、修理時期や場所が特定されている ☑ 上記の史資料は残されているが、時期・場所の特定はされていない その他　［　一部特定できるものもあるが、全てではない　］
近現代の修理記録の把握度	☐ 明治以降、全ての修理が把握されている（施工箇所、工法、図面、写真等） ☐ 戦後の主要な修理は把握しているが、明治～戦前の記録は不明 ☑ 近年の大規模な修理のみ把握している その他　［　　］
修理履歴・記録の活用状況	☐ 今後の修理計画の検討に活用している ☐ 日常の維持管理や点検する際の重点箇所として活用している ☑ 具体的な活用はしていない その他　［　　］

1.城跡等の総括的事項

名称(遺跡名)	史跡八幡城跡	都道府県	岐阜県	市町村	郡上市
文化財種別	県指定史跡	指定年月日	昭和30年8月30日	指定面積	6,930.03㎡
その他の指定	八幡城跡（市指定史跡） 八幡城（市指定重要文化財） 郡上市郡上八幡北町（重要伝統的建造物群保存地区）	その他の法規制	郡上市歴史的風致維持向上計画 郡上市景観条例 岐阜県立自然公園条例		
保存活用計画	有　平成30年9月策定	整備基本計画	無		
調査担当部署	郡上市教育委員会生涯学習課	整備担当部署			
管理担当部署	郡上市産業観光部観光課（八幡城の管理運営） 郡上市教育委員会生涯学習課（文化財の保存管理）	指定管理者	一般財団法人　郡上八幡産業振興公社		
委員会設置状況	史跡八幡城跡保存管理計画策定委員会（平成26年～、平成29年から「史跡八幡城跡保存活用計画策定委員会」に変更）	その他計画			

城郭等の概要	八幡城跡は、郡上市八幡町を東西に流れる吉田川と、北町の西方を流れる小駄良川が合流する地点に位置している。両河川に挟まれた城山一帯は要害の地であり、城郭の構築には絶好の地形となっている。永禄2年（1559）の赤谷山城の戦いに際し、遠藤盛数が城山の山頂部に陣を築いたのが始まりとされる。その後城主となった稲葉貞通が大改修を行い、本丸に天守台を設け、二の丸を拡張して居館とし、本格的な城郭となった。関ヶ原の合戦後の慶長6～8年（1601～1603）には、郡上に復帰した遠藤慶隆が惣石垣・松ノ丸・桜ノ門等を建造した。以来、遠藤氏4代、井上氏2代、金森氏2代、青山氏7代と受け継がれ、寛文年間（1661～1672）に行われた大規模修築によって、幕府から城郭として承認された。しかし寛文年間に描かれた絵図には天守台としか書かれておらず、その頃には山頂部に天守が存在していなかった可能性もある。

石垣の面積	3,577.42 ㎡	石垣の総延長	不明　　㎞

石垣の特徴	加工方法としては野面積と打込接の2種類が見られる。積み方は、後世の積み直しで谷積が混じっているほかはほとんどが乱積である。文献史料や各石垣の特徴より、天正期・慶長期・寛文期・江戸後期の4時期の築造時期が考えられる。
近代以降の動向	明治維新後、城郭が取り払われると、麓の本丸跡・二の丸跡・三の丸跡等には寺院や神社、住宅、登山路等が建設され、往時の姿は見られなくなった。昭和8年（1933）、当時国宝であった大垣城の天守をモデルとして山頂部に木造模擬天守と隅櫓、堀、冠木門が建てられた。 昭和30年（1955）、岐阜県が山頂と麓の城跡遺構を県史跡に指定した。旧八幡町は、昭和57年（1982）～平成2年（1990）に山頂部石垣の積み直し工事を実施し、昭和62年（1987）に木造模擬天守を町重要文化財に指定し、翌年に木造模擬天守の大修理を実施した。さらに平成5年（1993）、県史跡を取り囲む山林部を町史跡に指定した。 平成17年（2005）度、郡上市が山頂城郭部分の石垣の現況調査を実施し、平成20年（2008）に西側出丸上段石垣の修理工事を実施した。平成24年に八幡城跡を含む八幡市街地の北町が重要伝統的建造物群保存地区に選定され、平成26年（2014）には八幡市街地を重点地区とした郡上市歴史的風致維持向上計画が国に認定された。
維持管理の概要	文化財としての八幡城跡及び木造模擬天守八幡城の保存・調査は郡上市教育委員会生涯学習課が所管し、県史跡指定範囲の八幡城跡及び城山公園の管理は郡上市産業観光部観光課が所管している。また、木造模擬天守八幡城と城山公園の管理運営は一般財団法人郡上八幡産業振興公社が指定管理者となっている。

2.城郭の概要等に関する図面・写真（城域・指定範囲・各曲輪配置・石垣配置・関連建造物配置等）



参考文献	郡上市教育委員会　2018　『八幡城跡　保存活用計画書』

3. 石垣カルテの作成状況

カルテの作成状況	昨成済　一部作成済 （作成率：約　%）　(未作成) その他［　］
オルソ画像の作成	昨成済　(一部作成済)（作成率：約90%）　未作成 その他［　］
作成担当部署	管理部署　整備部署　(調査部署) その他［　］
実施主体	自治体職員　(民間委託業者)　専門職員と委託業者共同 その他［　］
作成年 / 更新年	初回：[平成30] 年　最終更新： [令和7] 年
管理方法	紙台帳　Excel・Word等　GIS　3Dデジタルツイン (その他)[JPG・PDF　]
カルテの更新頻度	毎年　数年に一回　随時　(更新していない) その他［　］
カルテ作成の課題	(予算不足)　専門職員不足　(時間的不足) その他［　］

4. 文化財石垣耐震診断指針(案)に基づく予備診断の実施状況

予備診断の実施状況	実施済　一部実施済　実施中　(未実施（検討中）) 未実施の理由　[　]
実施方法	自治体直営　委託　専門職員と委託業者共同
予備診断実施等の課題（複数回答可）	(予算不足)　専門職員不足　(時間的不足) その他［　］
予備診断における課題（自由記述）	

5. 降雨対策の実施状況(一部でも可、また今後の実施計画含む)

石垣構造内への遮水対策の内容(複数回答可)	植栽による遮水　不透水層の設置　遮水シートの埋設　表面舗装 (未実施（既存の表面排水含む）) その他［　］
表面水の排水対策の内容(複数回答可)	(公園施設の既存側溝)　遺構に影響を与えない新設排水　復元した排水遺構 新設排水の具体的な実施内容［　］ その他［　］

6.3Dデータの取得・活用状況

3Dデータの取得状況	全面的に取得済　一部取得済（　%）　未取得（計画中）　(予定なし) その他［　］
主な計測手法（複数回答可）	地上型3Dレーザースキャン　UAV（ドローン）等によるSfM写真測量 航空レーザー測量　スマホ・タブレット（LiDAR等） その他［　］
3Dデータの主な活用目的(複数回答可)	調査・研究　記録保存　経年変化の差分解析等 VR/AR等のデジタルコンテンツ化、公開・活用 その他［　］

7.石垣カルテ・耐震予備診断に関する図面・写真（作成カルテの事例、予備診断の内容等）

8.樹木管理

植栽管理計画の有無	無　計画名［　］　策定年度［　］
実施主体	管理部署　整備部署　調査部署　指定管理者 その他［　］
石垣及び周辺樹木への対応方針(天端･法面･根石付近)	伐採・除去　景観に配慮し、限定的伐採　未実施 その他　［
植栽管理の実績･内容等(直近5年以内)	
植栽管理における課題(自由記述)	

9.日常点検･実施体制

日常点検の内容	石垣の変状（孕み、緩み等）　間詰石の抜け落ち　地形の変状（ひび、沈下等） 樹木・草木の繁茂（目地からの繁茂等）　危険木の観察　排水機能の状況 その他［
日常点検の手法	目視　機器による動態観測（観測内容： その他［
日常点検の頻度	毎日　週1回程度　月1回程度　年数回の定期　災害後のみ　随時
点検の主体	整備部署　調査部署　管理部署　委託（指定管理等）　ボランティア・市民団体 その他［

石垣の変状について、「修理」を検討する具体的な変位量の閾値があるか	ある　無い	ある場合の具体的内容

閾値の設定について整備委員会等で議論を行っているか	行っている　今後行う予定　行っていない
変位確認後の対応スキーム(自由記述)	
日常点検における課題(自由記述)	

10. 石垣修理履歴･記録の把握

江戸期の修理履歴の把握度	普請、絵図面、家老日誌等により、修理時期や場所が特定されている 上記の史資料は残されているが、時期・場所の特定はされていない その他　［　］
近現代の修理記録の把握度	明治以降、全ての修理が把握されている（施工箇所、工法、図面、写真等） 戦後の主要な修理は把握しているが、明治～戦前の記録は不明 近年の大規模な修理のみ把握している その他　［　］
修理履歴･記録の活用状況	今後の修理計画の検討に活用している 日常の維持管理や点検する際の重点箇所として活用している 具体的な活用はしていない その他　［　］

1.城跡等の総括的事項

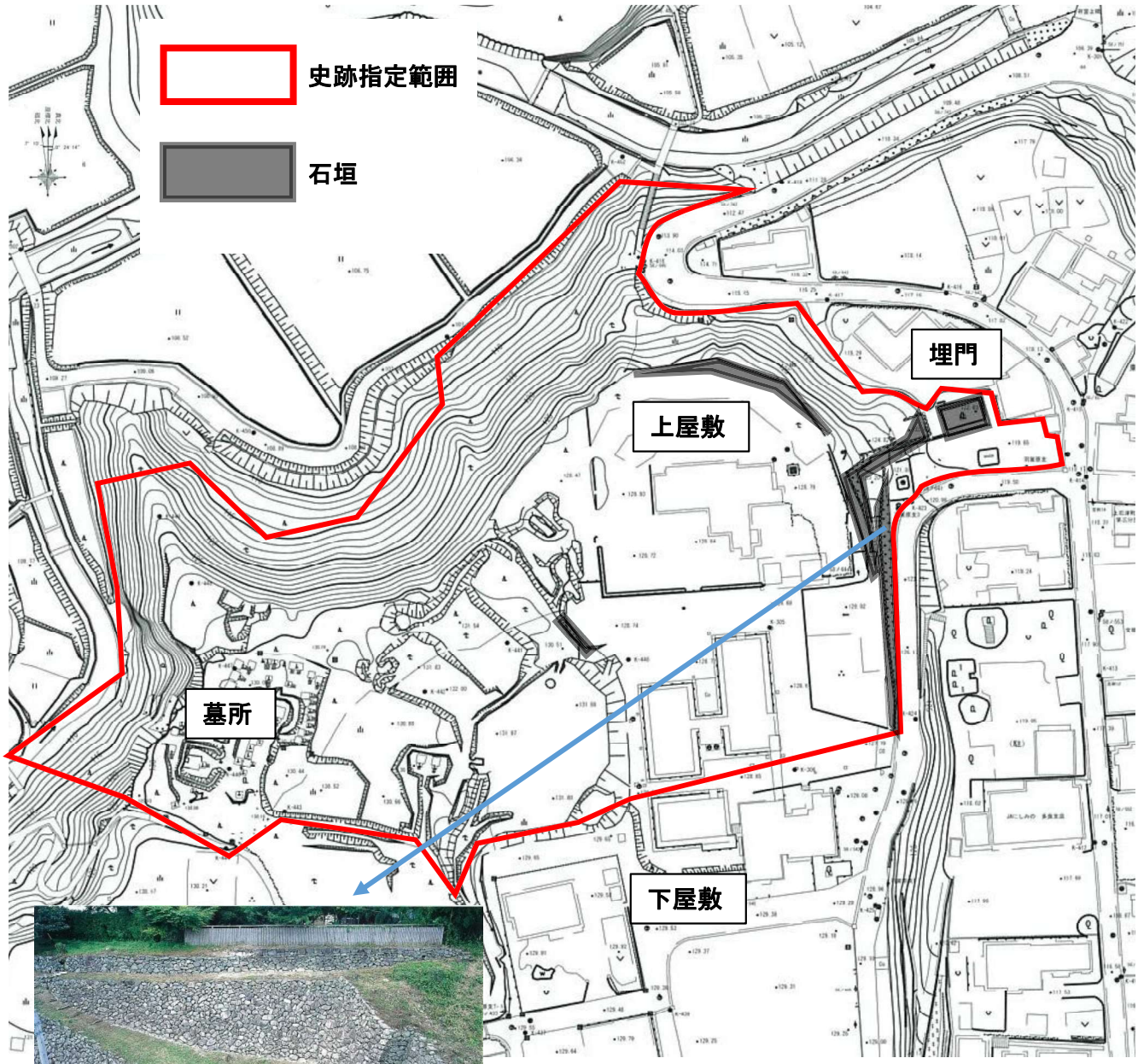
名称(遺跡名)	西高木家陣屋跡	都道府県	岐阜県	市町村	大垣市
文化財種別	国指定史跡	指定年月日	平成26年10月6日	指定面積	17,489.42㎡
その他の指定	なし	その他の法規制	なし		
保存活用計画	☑ 有 ☐ 無　平成30年3月策定	整備基本計画	☐ 有 ☑ 無		
調査担当部署	大垣市教育委員会文化振興課	整備担当部署	大垣市教育委員会文化振興課		
管理担当部署	大垣市教育委員会文化振興課	指定管理者	なし		
委員会設置状況	史跡西高木家陣屋跡保存活用計画策定委員会 （平成28～30年）	その他計画	なし		

城郭等の概要	西高木家陣屋跡は旗本西高木家の陣屋跡で、揖斐川の支流牧田川が形成した河岸段丘上に位置している。高木家は関ヶ原合戦の功績により石津郡時・多良郷（現　大垣市上石津町）に4,300石を与えられ、宗家である西高木家、北家・東家の3家が領内を統治した。 西高木家陣屋跡は伊勢街道に東面し、街道側の段丘崖を中心に石垣が築かれるとともに、埋門が整備された。敷地の北側に上屋敷、南側に下屋敷が構えられ、上屋敷西側には墓所が営まれた。屋敷絵図および古文書の調査から、天保3年（1832）に陣屋の大部分の建物が焼失し、その後建物の主軸を大きく変えて再建されたことが判明している。また、発掘調査でも、消失前後の地下遺構が良好に遺存していることが確認されている。

石垣の面積	1,142 ㎡	石垣の総延長	0.2 ㎞

石垣の特徴	西高木家陣屋跡では、伊勢街道に面した陣屋東側の段丘崖を中心に石垣が築かれている。石材は大部分を大型の硬質砂岩が占め、その他花崗岩・チャートが少量使用されている。原則自然石を積み上げているが、隅石や石垣の天端及び後世の積み直しと推定される部分には、一部加工された石材が含まれる。
近代以降の動向	明治2年の版籍奉還後、高木三家のうち西高木家のみが多良の地に残った。現在は明治年間（1868～1912）建造の主屋と嘉永5年（1852）建造の下屋敷御門を移築した長屋門が残っており、平成初年まで西高木家の居宅として使用されていた。 昭和49年（1974）、墓所が「西高木家墓石群」として、昭和63年（19）に埋門の石垣が「埋門跡」として、それぞれ上石津町（当時）指定史跡となった。平成7年（1995）に上石津町教育委員会による発掘調査が実施された後、主屋が残る上屋敷跡を中心とする部分を加えて、平成8年（1996）に「旗本西高木家陣屋跡」として岐阜県の指定史跡となった。 平成18年（2006)に上石津町は大垣市に合併し、平成19年（2005）から平成24年（2012）にかけて、大垣市教育委員会により石垣測量調査、現地地形測量、発掘調査、墓所測量調査が実施された。その後、平成26年（2014）に「西高木家陣屋跡」として国の史跡に指定され、現在に至る。
維持管理の概要	西高木家陣屋跡の維持管理として、平地および斜面地の除草を年間2回の委託業務として実施している。 令和4年度に北東面石垣の一石が崩落した際、その復旧に伴い石垣に干渉していた樹木の根を切除したが、恒常的な樹木管理には着手できていない。

2.城郭の概要等に関する図面・写真（城域・指定範囲・各曲輪配置・石垣配置・関連建造物配置等）



上屋敷　東面石垣

参考文献	大垣市教育委員会　2013　『岐阜県史跡　旗本西高木家陣屋跡』 大垣市教育委員会　2018　『史跡西高木家陣屋跡　保存活用計画書』

3. 石垣カルテの作成状況

カルテの作成状況	☐ 昨成済　☐ 一部作成済（作成率：約　%）　☑ 未作成 その他［　］
オルソ画像の作成	☐ 昨成済　☐ 一部作成済（作成率：約　%）　☑ 未作成 その他［　］
作成担当部署	☐ 管理部署　☐ 整備部署　☐ 調査部署 その他［　］
実施主体	☐ 自治体職員　☐ 民間委託業者　☐ 専門職員と委託業者共同 その他［　］
作成年 / 更新年	初回：［　］年　最終更新：［　］年
管理方法	☐ 紙台帳　☐ Excel・Word等　☐ GIS　☐ 3Dデジタルツイン その他［　］
カルテの更新頻度	☐ 毎年　☐ 数年に一回　☐ 随時　☐ 更新していない その他［　］
カルテ作成の課題	☐ 予算不足　☐ 専門職員不足　☑ 時間的不足 その他［　］

4. 文化財石垣耐震診断指針(案)に基づく予備診断の実施状況

予備診断の実施状況	☐ 実施済　☐ 一部実施済　☐ 実施中　☑ 未実施（検討中） 未実施の理由　［　実施方法が定まっていないため　］
実施方法	☐ 自治体直営　☐ 委託　☐ 専門職員と委託業者共同
予備診断実施等の課題（複数回答可）	☐ 予算不足　☐ 専門職員不足　☑ 時間的不足 その他［　］
予備診断における課題（自由記述）	一部の石垣は急傾斜の段丘上に位置することから、担当者の安全を確保しつつ十分な調査を実施する方法を考える必要がある。

5. 降雨対策の実施状況(一部でも可、また今後の実施計画含む)

石垣構造内への遮水対策の内容(複数回答可)	☐ 植栽による遮水　☐ 不透水層の設置　☐ 遮水シートの埋設　☐ 表面舗装 ☑ 未実施（既存の表面排水含む） その他［　］
表面水の排水対策の内容(複数回答可)	☐ 公園施設の既存側溝　☐ 遺構に影響を与えない新設排水　☐ 復元した排水遺構 新設排水の具体的な実施内容［　］ その他［　］

6.3Dデータの取得・活用状況

3Dデータの取得状況	☑ 全面的に取得済　☐ 一部取得済（　%）　☐ 未取得（計画中）　☐ 予定なし その他［　］
主な計測手法（複数回答可）	☑ 地上型3Dレーザースキャン　☐ UAV（ドローン）等によるSfM写真測量 ☐ 航空レーザー測量　☐ スマホ・タブレット（LiDAR等） その他［　］
3Dデータの主な活用目的(複数回答可)	☐ 調査・研究　☑ 記録保存　☐ 経年変化の差分解析等 ☐ VR/AR等のデジタルコンテンツ化、公開・活用 その他［　］

7.石垣カルテ・耐震予備診断に関する図面・写真（作成カルテの事例、予備診断の内容等）

8.樹木管理

植栽管理計画の有無	☐ 有 ☑ 無　　計画名［　　］　　策定年度［　　］
実施主体	☑ 管理部署　☐ 整備部署　☐ 調査部署　☐ 指定管理者 その他［　　］
石垣及び周辺樹木への対応方針(天端･法面･根石付近)	☑ 伐採・除去　☐ 景観に配慮し、限定的伐採　☐ 未実施 その他　［
植栽管理の実績･内容等(直近5年以内)	令和4年度、北東面石垣の一石が崩落した際、復旧時に当該箇所の樹木の根を切除した。
植栽管理における課題(自由記述)	

9.日常点検･実施体制

日常点検の内容	☑ 石垣の変状（孕み、緩み等）　☐ 間詰石の抜け落ち　☐ 地形の変状（ひび、沈下等） ☑ 樹木・草木の繁茂（目地からの繁茂等）　☐ 危険木の観察　☐ 排水機能の状況 その他［
日常点検の手法	☑ 目視　☐ 機器による動態観測（観測内容： その他［
日常点検の頻度	☐ 毎日　☐ 週1回程度　☐ 月1回程度　☐ 年数回の定期　☐ 災害後のみ　☑ 随時
点検の主体	☐ 整備部署　☐ 調査部署　☑ 管理部署　☐ 委託（指定管理等）　☐ ボランティア・市民団体 その他［
石垣の変状について、「修理」を検討する具体的な変位量の閾値があるか	☐ ある　☑ 無い　／　ある場合の具体的内容
閾値の設定について整備委員会等で議論を行っているか	☐ 行っている　☐ 今後行う予定　☑ 行っていない
変位確認後の対応スキーム(自由記述)	
日常点検における課題(自由記述)	

10. 石垣修理履歴･記録の把握

江戸期の修理履歴の把握度	☐ 普請、絵図面、家老日誌等により、修理時期や場所が特定されている ☑ 上記の史資料は残されているが、時期・場所の特定はされていない その他　［　　］
近現代の修理記録の把握度	☐ 明治以降、全ての修理が把握されている（施工箇所、工法、図面、写真等） ☐ 戦後の主要な修理は把握しているが、明治～戦前の記録は不明 ☑ 近年の大規模な修理のみ把握している その他　［　　］
修理履歴･記録の活用状況	☐ 今後の修理計画の検討に活用している ☐ 日常の維持管理や点検する際の重点箇所として活用している ☑ 具体的な活用はしていない その他　［　　］

1.城跡等の総括的事項

名称(遺跡名)	美濃金山城跡	都道府県	岐阜県	市町村	可児市
文化財種別	史跡	指定年月日	平成25年10月17日	指定面積	302466.60㎡
その他の指定		その他の法規制	自然公園法、森林法		
保存活用計画	☑ 有 ☐ 無	整備基本計画	☑ 有 ☐ 無		
調査担当部署	経済交流部歴史資産課	整備担当部署	経済交流部歴史資産課		
管理担当部署	経済交流部歴史資産課	指定管理者	可児市		
委員会設置状況	美濃金山城跡整備委員会	その他計画			

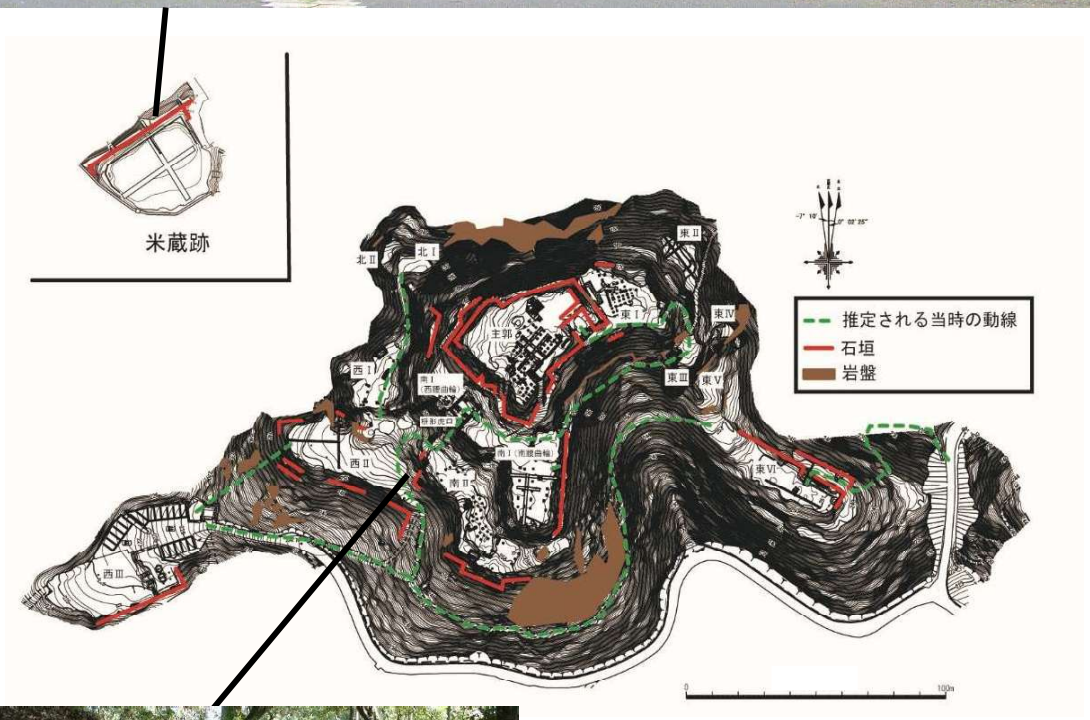
城郭等の概要	美濃金山城跡は、木曽川中流域の左岸に位置する古城山にあり、戦国期から織豊期において斎藤大納言や森家が城主となった東美濃の中心的山城である。発掘調査などの成果により、多くの曲輪に川原石を用いた礎石建物があり、各曲輪で複数回の建て替えを行っていることが明らかとなった。桐紋の軒平瓦や道具瓦などの瓦が出土し、天守と想定される建物や門などに使用されていたと想定される。山上と山麓の曲輪に石垣が築かれており、織豊系城郭の特徴をよくとどめている。慶長6年（1601）頃に破城されるが、その後御料林となるため、森忠政が城主だった当時の礎石や破城後の石垣などが良好に残っている。

石垣の面積	約853 ㎡	石垣の総延長	0.6 ㎞

石垣の特徴	石垣は遠くから見える位置や動線上から見える位置に配置され、山上の曲輪は基本的に３m未満の高さであるが、山麓では高さ5m以上の石垣が築かれる。石垣の積み方は、基本的には野面積みで隅角には算木積みが用いられる。破城の際に、天端と隅角が落とされており、その破城の痕跡が今も見ることができる。石材は城が築かれた古城山から採れるチャートが多く用いられている。
近代以降の動向	破城後は御料林となっていたが、昭和20年以降に国有林となり、昭和28年に旧兼山町が払い下げを受ける。昭和30年代には城跡内にバンガローなどが造られるなど一時期利用される。昭和38年には兼山町史跡となり、昭和42年には県の指定史跡となった。また、昭和40年代に発掘調査等が行われ、指定と相まって石垣の一部が積み直されたようである。昭和44～53年には城山林道が整備され、出丸まで車で行けるようになる。 平成16年度に出丸部分の石垣の積み直しを行っている他、近年は自然災害等により石垣や斜面が一部崩れ、植生マットや金網ネットなどの安全対策を行っている。
維持管理の概要	史跡指定後、可児市が管理主体となり、定期的な樹木管理を行っている。また、ボランティア団体と協力し、城跡内の除草や木製階段などの動線の維持管理などを行っている。 大雨や地震などの自然災害が起きた場合は、市担当者が現地確認を行っている。

2.城郭の概要等に関する図面・写真（城域・指定範囲・各曲輪配置・石垣配置・関連建造物配置等）







参考文献	可児市教育委員会　2016　『史跡美濃金山城跡　保存活用計画書』 可児市　2018　『国史跡美濃金山城跡　整備基本計画』 可児市教育委員会　2013　『金山城跡発掘調査報告書』 可児市・滋賀県立大学　2021　『美濃金山城跡主郭発掘調査報告書』 可児市・滋賀県立大学　2025　『美濃金山城発掘調査報告書2　主郭・東Ⅰ・米蔵跡・西Ⅱ』 可児市・滋賀県立大学　2026　『美濃金山城発掘調査報告書3　東Ⅰ』

3. 石垣カルテの作成状況

カルテの作成状況	☑ 作成済　☐ 一部作成済（作成率：約　%）　☐ 未作成 その他［　］
オルソ画像の作成	☑ 作成済　☐ 一部作成済（作成率：約　%）　☐ 未作成 その他［　］
作成担当部署	☑ 管理部署　☐ 整備部署　☐ 調査部署 その他［　］
実施主体	☐ 自治体職員　☐ 民間委託業者　☑ 専門職員と委託業者共同 その他［　］
作成年 / 更新年	初回：［　2022　］年最終更新：［　　］年
管理方法	☑ 紙台帳　☐ Excel・Word等　☐ GIS　☐ 3Dデジタルツイン その他［　］
カルテの更新頻度	☐ 毎年　☐ 数年に一回　☑ 随時　☐ 更新していない その他［　］
カルテ作成の課題	☐ 予算不足　☐ 専門職員不足　☐ 時間的不足 その他［　］

4. 文化財石垣耐震診断指針（案）に基づく予備診断の実施状況

予備診断の実施状況	☐ 実施済　☐ 一部実施済　☐ 実施中　☑ 未実施（検討中） 未実施の理由［　］
実施方法	☐ 自治体直営　☐ 委託　☐ 専門職員と委託業者共同
予備診断実施等の課題（複数回答可）	☐ 予算不足　☑ 専門職員不足　☑ 時間的不足 その他［　］
予備診断における課題（自由記述）	石垣カルテ作成後に、予備診断を行うに至っていない。

5. 降雨対策の実施状況（一部でも可、また今後の実施計画含む）

石垣構造内への遮水対策の内容（複数回答可）	☐ 植栽による遮水　☐ 不透水層の設置　☐ 遮水シートの埋設　☐ 表面舗装 ☑ 未実施（既存の表面排水含む） その他［　］
表面水の排水対策の内容（複数回答可）	☐ 公園施設の既存側溝　☐ 遺構に影響を与えない新設排水　☐ 復元した排水遺構 新設排水の具体的な実施内容［　］ その他［　］

6.3Dデータの取得・活用状況

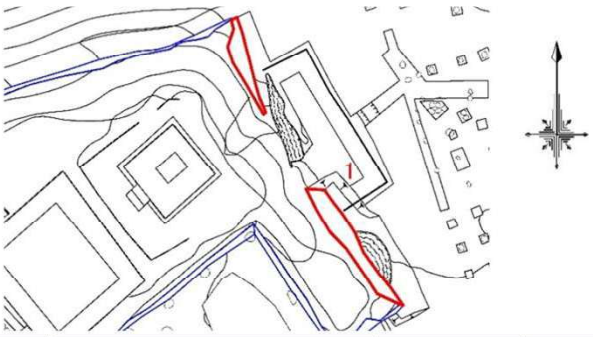
3Dデータの取得状況	☑ 全面的に取得済　☐ 一部取得済（　%）　☐ 未取得（計画中）　☐ 予定なし その他［　］
主な計測手法（複数回答可）	☐ 地上型3Dレーザースキャン　☑ UAV（ドローン）等によるSfM写真測量 ☐ 航空レーザー測量　☐ スマホ・タブレット（LiDAR等） その他［　］
3Dデータの主な活用目的（複数回答可）	☐ 調査・研究　☑ 記録保存　☑ 経年変化の差分解析等 ☐ VR/AR等のデジタルコンテンツ化、公開・活用 その他［　］

7.石垣カルテ・耐震予備診断に関する図面・写真（作成カルテの事例、予備診断の内容等）

美濃金山城跡　石垣カルテ調査票

石垣番号	1	地区	主郭
石垣部位	主郭SV1	方位	北東
地盤	岩盤・地山・盛土・胴木・不明	立地面	平坦面・斜面(　度)

位置図



延長		高さ		
天端	裾基部	左	中央	右
17.8m	19.1m	1.9m	2.6m	1.5m
立面積		34.1㎡		

隅角部	平面形状	立面形状 勾配	立面形状 反り	石材加工技法	石材構成		石材寸法	石材形状・規格性
左	出角・入角・錣出角・錣入角・すり付け	72度	無・有(天端から　m)	野面石・割石・切石	算木積(無・角石・角脇石)・間詰石(量[ ]・加工技法[ ])・縦石積み	角脇石(　個)・やせ角	16cm×41cm	規格性なし
右	出角・入角・錣出角・錣入角・すり付け	度	無・有(天端から　m)	野面石・割石・切石	算木積(無・角石・角脇石)・間詰石(量[ ]・加工技法[ ])・縦石積み	角脇石(　個)・やせ角	cm×　cm cm×　cm	

加工痕跡等(表面加工・刻印・転用石・建物跡等)
確認できず

石質(岩石の種類・特徴・産地等)
チャート

築石部	平面形状	立面形状 勾配	立面形状 反り	立面形状 気負い	石材加工技法	石積み技法	石材構成	石材寸法	石材形状・規格性
	直線・輪取り	68度	無・有(天端から　m)	無・有	野面石・割石・切石	乱積み・布崩し積み・布積み・谷積み	間詰石(量[ ]・加工技法[ ])・縦積	19cm×24cm 65cm×98cm	規格性なし

加工痕跡等(表面加工・刻印・転用石・建物跡等)
確認できず

石質(岩石の種類・特徴・産地等)
チャート・砂岩

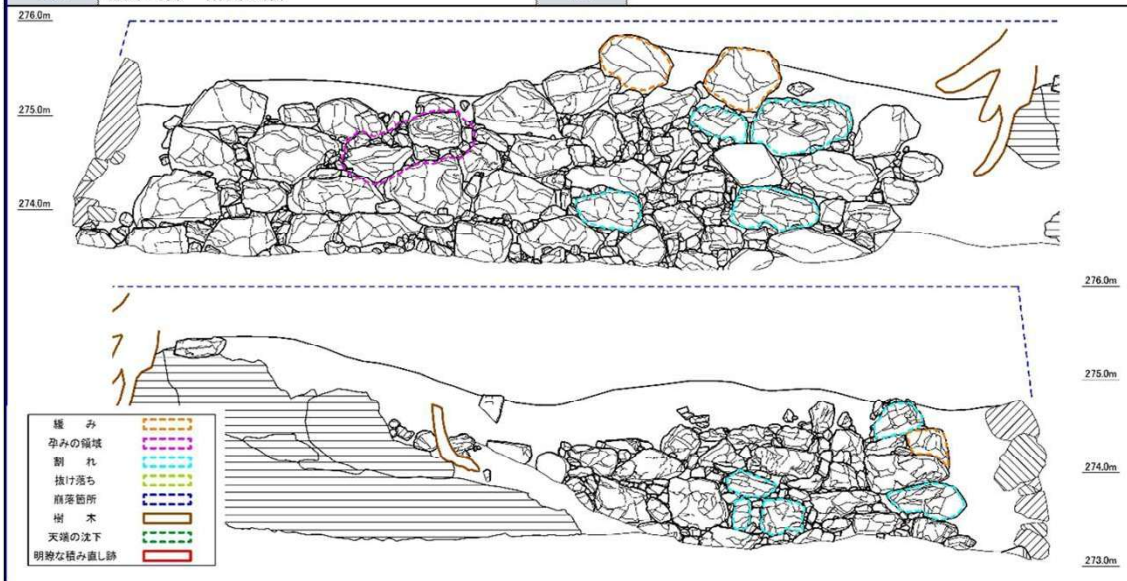
破損		緩み	孕み	割れ	抜け落ち	崩れ	樹木	天端の沈下	その他
隅角部	天端					有			
	中部					有			
	裾基部								
築石部	天端					有	有		
	中部	南:有	有	有					
	裾基部								

変形の計測：無・有
観測年・状況：平成18年度　第1次調査

危険性

崩落等の可能性	無
周辺の利用形態等から見た危険性	無
危険度 1次	
危険度 最終	

古絵図・古文書等	
既往の発掘調査・研究等	(可児市教育委員会　2013)「金山城跡発掘調査報告書」　(可児市教育委員会　2016)「史跡美濃金山城跡　保存活用計画書」
上部構造物	
築造時期	改修時期：
分類：北側:A類　南側:B類	編年：



8.樹木管理

植栽管理計画の有無	☐ 有 ☑ 無　　計画名［　　］　　策定年度［　　］
実施主体	☑ 管理部署　☐ 整備部署　☐ 調査部署　☐ 指定管理者 その他［　　］
石垣及び周辺樹木への対応方針（天端・法面・根石付近）	☑ 伐採・除去　☑ 景観に配慮し、限定的伐採　☐ 未実施 その他　［
植栽管理の実績・内容等（直近5年以内）	石垣に影響のある周辺に生えている木を伐採した。
植栽管理における課題（自由記述）	木の搬出ができず、伐採した木が積み置かれており、景観を阻害している部分がある。

9.日常点検・実施体制

日常点検の内容	☑ 石垣の変状（孕み、緩み等）　☑ 間詰石の抜け落ち　☑地形の変状（ひび、沈下等） ☐ 樹木・草木の繁茂（目地からの繁茂等）　☑危険木の観察　☐排水機能の状況 その他［
日常点検の手法	☑ 目視　☐ 機器による動態観測（観測内容：　　） その他［
日常点検の頻度	☐ 毎日　☐ 週1回程度　☐ 月1回程度　☑年数回の定期　☐災害後のみ　☐随時
点検の主体	☐ 整備部署　☐ 調査部署　☑ 管理部署　☐ 委託（指定管理等）　☑ボランティア・市民団体 その他［
石垣の変状について、「修理」を検討する具体的な変位量の閾値があるか	☐ ある　☑ 無い　／　ある場合の具体的内容
閾値の設定について整備委員会等で議論を行っているか	☐ 行っている　☑ 今後行う予定　☐行っていない
変位確認後の対応スキーム（自由記述）	石垣が崩れた後にしか対処ができず、変位を確認して事前に対処はできていない。
日常点検における課題（自由記述）	目視による点検のため、わずかな孕みや緩みに気づかない場合がある。

10. 石垣修理履歴・記録の把握

江戸期の修理履歴の把握度	☐ 普請、絵図面、家老日誌等により、修理時期や場所が特定されている ☐ 上記の史資料は残されているが、時期・場所の特定はされていない その他　［　　修理履歴はない　　］
近現代の修理記録の把握度	☐ 明治以降、全ての修理が把握されている（施工箇所、工法、図面、写真等） ☐ 戦後の主要な修理は把握しているが、明治～戦前の記録は不明 ☐ 近年の大規模な修理のみ把握している その他　［積み直しを行っている部分は記録がある部分とない部分がある。　］
修理履歴・記録の活用状況	☐ 今後の修理計画の検討に活用している ☐ 日常の維持管理や点検する際の重点箇所として活用している ☑ 具体的な活用はしていない その他　［　　］